

事務所 〒192-0046 八王子市明神町4-1-2 ストーク八王子205
TEL 0426-46-3008 FAX 0426-46-3051

ごあいさつ

新しい年を迎え、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。
昨年は皆様のご支援のもと都議会議員としての活躍の場をお与えいただき、改めてお礼を申し上げます。

初心を忘れず、首都東京の風格ある発展と故郷八王子の再生に向け、あらゆる機会をとらえて皆様の声を届け全力で取り組む決意です。さて、都政に参画して早や半年、スケールの大きさ、展開の早さ、又国に与える影響の深さ等、驚かされる事ばかりです。特に石原都政がとかく23区中心都政である点は否めない点ですが、幸い市政での貴重な経験と皆様から頂戴をした53,822票の大きな民意を糧に三多摩の様々な課題や八王子の抱える特殊事情をしっかりとふまえ、知事や関係各局へ訴えてまいる所存です。

又、懸案の都立八王子小児病院の統廃合の問題や都八王子保健所の統合計画等、本市にとっての重要案件を専門的に取り組めるよう常任委員会は衛生局・福祉局を所管する厚生委員会を志願しました。

各会計決算特別委員会では、第1分科会に席を置き、知事本部、総務局、財務局、主税局、出納長室、選挙管理委員会、人事委員会、監査、収用委員会を担当し積極的に質議をさせていただきました。

55名の最大会派自民党は、1年生だけでも14名もおりますのでレギュラーになるのは大変ですがしっかりと存在感を示してまいる所存です。

都庁に滞在する時間も長く市議会の時に比べれば皆様とお目にかかる機会は少なくなるとは存じますが、八王子の代表として精一杯がんばってまいりますので今後共変らぬご支援と一層のご指導をお願い申し上げます。

平成 14 年 春
東京都議会議員 萩生田 光 一

新人議員としてフル回転の半年間



皆様の声援をいただき小泉総理と



お陰様でトップ当選!



緊張の中での初議会



厚生委員会の初質議では都立八王子小児病院の必要性を改めて訴えました。保健所については市へ移管を前提に協議をするが、財政的支援は都がすべきと質しました。



三宅島の被災地視察



市議会の仲間の皆さんを都庁へ迎えての勉強会(中央は三田議長)



連合後援会長に田中真男氏就任



自民党青年部を代表しODA実態調査でラオスを訪問。小学校へ文房具を届けました。

後援会等の今後の予定

●どなたでも参加できます。詳しくは事務局へお問い合わせください。

東京ルネッサンス21 総会・時局セミナー

平成14年 **2月15日**(金)
開場受付18:00~ 18:30開会

京王プラザホテル八王子

会費 10,000円 (1部セミナー・2部懇親会)

講師 石原伸晃 行革担当大臣



後援会 第9回 映画会

平成14年 **4月23日**(火) 18:00~

八王子市民会館 作品: 親分はイエス様 (予定)

監督: 高藤 耕一



ゴルフコンペ (東京ルネッサンス21主催)

平成14年 **7月1日**(月)

八王子カントリークラブ ※定員になり次第メットさせていただきます。

都庁見学会のご案内

都庁見学を兼ねた東京再発見の1日旅行会を随時開催しております。
地域・団体・グループで是非一度お出かけください。



八王子 → 都庁 → 浅草(昼食) → 江戸東京博物館 → 八王子
お台場(昼食) → 臨海副都心見学 → 八王子 等

※費用は人数、開催時期によって異なりますので一度ご相談を...

多摩ニュータウン事業の今後について

多摩NT事業は都心で働く人々の住宅不足の解消と大量住宅供給を目的に国の住宅政策として始まった。事業開始から35年、当初の住宅一辺倒から業務機能分散の受皿として、あるいは大学の移転等多機能複合都市として発展してきた。開発段階では収束に向かっていて一方で予想もしなかった数々の問題が発生し地元市は困惑している中で、都は15年度をもって、事業からの撤退を表明し、14年度には事業を一元的に担ってきた多摩都市整備本部の廃止を決定した。



NT内では街びらき当初あまりにも入居をあせるばかり同街区に同じ世代、同じライフスタイルの人ばかり入居させた結果、入れ替えも図られない中、30年後は高齢者ばかりとなり小中学校の統廃合という事態となった。これらの建設費はかかる費用の1/2を国が補助し残りの1/2を都が30年の償還期間

を定め金利も含めて市に返済するルールで建設したにもかかわらず平成十一年以降、制度改正により本来、都が負担すべき未償還分を八王子市は約230億円負担する事となった。

一方空き教室を自由に転用したり、廃校後の土地利用を民間対象とすると国へ補助金を戻さなくてはならないルールになっている。

NTの学校廃校は住宅政策の失敗であり世の中の少子化とは原因が異なるはず。国の住宅政策の後始末を地方分権の名のもとに地元市へ押し付け、負担ばかりが増えていく現状を改善するためにも、今後NT区域で発生する学校統廃合にあたっては一般市街地とは異なる特例的措置が必要と考える。

質問1 都はこれまでにニュータウン事情を進めてきた立場から、国及び都の責任を明確にしたうえで跡地利用の活用等規制緩和と負担軽減に向け国に働きかけるべきと考えますが所見をお示し願いたい。

答え1 多摩都市整備本部長

指摘のような問題が発生しているのは承知している。今後地元市と協議の上、より柔軟な対応ができるよう国等、関係機関に働きかけていく。



質問2 今後発生する様々な問題に対応できるよう規模は縮小してもニュータウン事業を一体として所管する組織を残すべきと考えるが所見を問う。

答え2 総務局長

残された課題に引き続き対応できるよう指摘の趣旨や関係市の要望を踏まえて新体制の整備を図る。

質問3 当然の人口増加に合せて警察署(仮称多摩西警察)や消防関連施設が計画され土地が確保されている。一方、今となって予算が無いという理由で信号機も交番も置けないというのは納得できない。警察署の設置は急ぐべきと考えるが今後の予定を問う。

答え3 警視総監

警察署の新設については昭和48年度の多摩NT計画に基づき進めてきた。南大沢駅前平成16年度に用地買収を行い、平成18年度から建設工事に着手できるよう協議中である。

(その他の質問 土地売却の市とのルール作りの必要性について。街区ごとの明確なコンセプトについて)

病院改革会議の報告について

都立八王子小児病院の統廃合は、地域事情をかんがみて再検討を!

この度の病院改革会議の報告では八王子と清瀬、世田谷、3つの小児病院を統合し、小児医療の充実のため、府中の都立病院の隣接に小児総合医療センターを建設する新たな提案がなされた。

八王子小児病院は、多摩西部三地区医療圏でわずか9ベッドのNICU(新生児集中治療室)を有する唯一の小児専門病院として八王子のみならず多くの都民のよりどころとして大きな使命を担ってきた。平成9年には市内東浅川町の都立畜産試験場跡地に周産期医療センターとして移転する事が決まり、地元市では受け皿となる様々な事務作業や医療関係者との会議を重ね、又、西多摩各市も圏央道を使った医療連携をかかげてきた。地理的にも府中へセンター機能を持った小児病院をつくるのはやむを得ないとしても、八王子病院を廃院するのは小児医療の不足する地域事情からしても到底納得できない。都は地元で対応すべきと言うが小児科医の減少と高齢化は東京のみならず大きな社会問題。民間の受け皿の乏しいかけがえのない小児医療こそ、たとえ不採算であっても都が補わなければならない医療と考える。



初めて本会議場での一般質問の機会をいただきました

紙面の関係で要旨のみご報告申し上げますが、詳しくはホームページのライブビデオをご覧ください。

<http://www.ko-1.jp>



質問1 都は八王子小児病院の今日まで果たしてきた役割と今後の必要性をどう認識しているか問う。

答え1 衛生局長

小児医療の大きな役割をはたしてきた事は承知しているが規模やスタッフ等限界にきている。地元との役割分担を踏まえ地域医療の確保に配慮し検討する。

質問2 乳幼児の医療は時間との戦いで大きな病院を一つつくれば解決する問題ではない。小児医療のあり方を含め、東京の子供達の医療をどうするか、児童虐待や福祉、教育をどうするかをマクロで見渡せるよ

うな子供達の為の東京政策が今こそ必要と考えるが知事の所見を問う。

答え2 石原慎太郎 都知事

社会の変化の中で子供達が要らざる危険にさらされていると感じている。

少子高齢化社会の中で、家庭や地域における養育力の低下が進み、育児の不安や家庭内暴力までが跋扈する中で、東京都の責任で指摘のようなマクロな政策を講じていかなければならない。平成14年度の重要政策の中でも「子供がすこやかに成長し、未来に希望が持てる社会」を加えた。小児病院についても限られた財源の中検討を重ね、国に先駆けて子供の為の政策を積極的に展開する。

(その他の質問 小児医療の新しい検討会の設置、医療改革マスタープランの位置付)

